

SlackBot プログラムの報告書

2019/4/26

浜本 時空

1 概要

本資料は 2019 年度新人研修課題にて作成した SlackBot プログラムの報告書である。本資料では、課題内容、理解できなかった部分、作成できなかった機能、および自主的に作成した機能について述べる。なお、本資料において発言とはチャットツールである Slack[1] の特定のチャンネル上で発言すること、または発言そのものを指す。また、本資料において発言内容は“”で囲って表す。

2 課題の内容

(1) 任意の文字列を発言するプログラムの作成

受信した発言の中に“「任意の文字列」と言って”という文字列を含む場合は、“任意の文字列”と発言するプログラムを作成する

(2) SlackBot プログラムへの機能追加

SlackBot プログラムへ機能を追加する。Slack 以外の Web サービスの API や Webhook を利用した機能を追加する。

3 理解できなかった部分

理解できなかった部分を以下に示す。

- (1) 今回の課題ではサンプルプログラムが配布されており、サンプルプログラム内に `naive_respond` メソッドが存在する。このメソッドを使用すると Slack にメッセージが表示されるが、メソッド内に Incoming Webhook の URL の記述がないにもかかわらず、なぜ Slack 上にメッセージが表示されるのかが理解できなかった

4 作成できなかった機能

作成できなかった機能を以下に示す。

- (1) 設定した Outgoing Webhook 以外からの POST の拒否
- (2) 表示させる商品の値段の閾値を決める機能

5 自主的に作成した機能

自主的に作成した機能を以下に示す。

- (1) 機能としてサポートされていない発言を受信した場合は、機能の概要を発言する。詳しくは SlackBot プログラムの仕様書に記載する。

参考文献

- [1] Slack: その仕事、Slack で。 , Slack (オンライン) , 入手先 (<https://slack.com/intl/ja-jp/>)
(参照 2019-04-25)